

心不全パンデミック

心不全は各種心臓病の終末像で人口高齢化につれて患者が増え続け、世界で心不全パンデミック(大流行)と呼ばれています。日本でも患者数は約120万人に達し、年間約8万人が死亡しています。さらに最近ではコロナ関連の心不全が急増して、死亡者は年間10万人に上ります。

報告によると、コロナ感染者の約65%で心筋障害を示すトロポニンTが異常値を示し、その約30%に心筋浮腫や心筋炎所見を認めました。なお、mRNAワクチン接種数日後に、特に若い男性の数%で心筋障害を生じましたが、いずれも軽症でした。

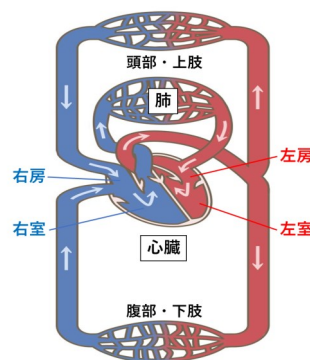
コロナ感染による心不全リスクを回避するためにもワクチン接種が推奨されています。

健康♪外来ニュース

心不全

心不全とは「心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」(日本循環器学会)です。心臓は1回の収縮で約80ml、脈拍数70回/分とすると、1日に約8トンもの血液を循環させています。

心臓の左室は動脈血を全身に送り出し、右房は静脈血を心臓へ引き戻して右室から肺へ送ります(図)。



心臓の左側の機能が落ちる①左心不全では、動脈血(酸素)を全身に十分に供給できないので、低血圧、四肢冷感、意識障害などを生じます。さらに左室内に血液がよどむので肺から流入する血液がうっ滞(肺うっ血)を起こして、息切れ、呼吸困難(起坐呼吸:上体を起こさないと息苦しい)、喘息などを生じます。右側の機能が落ちる②右心不全では、静脈血が心臓に戻らず身体各部位にうっ滞するので、肝臓腫大、下肢浮腫、腹部膨満、胸水などを生じます。心不全(HF)の治療は、左室駆出率(EF:1回拍出量÷左室容積)と基礎疾患によって異なります。①HF rEF: EFが40%未満に低下した(reduced)心不全=収縮不全では、ACE阻害薬/ARB、ARNI、β遮断薬、MRA、SGLT2阻害薬などを使用します。②HFpEF: EFが50%以上に保たれた(preserved)心不全=拡張不全では、利尿剤のほか、併存疾患(糖尿病、腎臓病、COPDなど)の治療を行います。

心不全を疑う検査所見

心電図や心音の異常、胸部X線で心胸郭比の拡大(>50%)、左室負荷を示すBNP $\geq 100\text{pg/ml}$ あるいはNT-proBNP $\geq 400\text{pg/ml}$ 、心臓エコー(超音波)検査で下大静脈の幅拡大(>20mm)、左室拡張末期径の拡大(男>55mm、女>50mm)、左室壁の肥厚(>7~10mm)、左室駆出率(EF)の低下などで診断します。当院ではこれらの検査ができます。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当: 中嶋